

幼稚園の「遊び」は、まだ「教科名がない学び」

遊びを通した幼児期の学びから、小学校1年生の自覚的な学びへ

荒尾第一幼稚園 幼小架け橋プログラム

写真付き 事例集

この資料で大切にしたいこと

本資料は、小学校1年生で育てる資質・能力の「基礎」が、幼児期の遊びや生活の中にどのように現れているのかを、荒尾第一幼稚園の年長組のドキュメンテーションから具体的に示したものです。

幼児期の「基礎」は、小学校の学習内容を簡単にしたものでも、先取りしたものでもありません。

子どもたちは、遊びや生活の中で「こうしたい」「どうしたらできるだろう」という願いが生まれ、感じ、気づき、分かり、できるようになり、そこで得たことを使って考え、試し、工夫し、表現しています。

一つの遊びの中には、数量、言葉、身体、自然や素材との関わり、友達との協働など、後にさまざまな教科等へとつながっていく経験が、まだ分かれることなく存在しています。

幼児期のこうした経験が、小学校での学びとどのようにつながり、どのように広がっていくのか。幼稚園と小学校との対話を通して考えていきたいと思っています。

そのため、この事例集は「幼稚園のこの遊び＝小学校のこの単元」と一対一で対応させるものではなく、

「この授業につながるまでに、幼児期にはどのような経験をしてきたか」

「この幼児期の経験は、小学校でどのような学びへつながっていくのか」と、

実践を持ち寄りながら考えるための一つの手掛かりとしてまとめました。

また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」も共通言語の一つとしながら、

一人の子どもの連続した学びを幼稚園と小学校の双方から見つめていく。この資料が、そうした対話を重ねながら、

「ここから、どのようにつながっていくのだろう」と一緒に考えていくきっかけになればと思います。

荒尾第一幼稚園

1. 同じ大きさのドッジボールコートを作りたい

算数「測定」の手前にある経験

5+5

コートと同じ大きさに作る

ドッジボールの準備中。子ども達は自分達でコートを作ります。
子ども達の様子を見ていると、保育者が何も教えていないのに1本端に線を引いて、そこから歩幅を数えていきます。
同じ大きさにしないといけないという気持ちがあるようで、歩幅5歩ずつと遊ぶ中で決まったようです。

この歩幅で数えるという方法は、前の年長児がやっている姿が受け継がれていっているなと感じます。
しかし、毎年その年なりの子どもの 방법이反映されていて面白い。
何人も測っていると歩幅の大きさが違うことでズレも生じています。すると「おおまたで5歩だよ」と教えてくれたり、5歩になるように歩幅を調節して測っている姿がいいなと思います。
小学生になって計算を勉強する時に、このコートのことを思い出してくれたら、子ども達の知識としてしっかりと入っていくんだろうなと思います♪

5×2

さくら組（年長）2024.6.3



「5歩測って。
ここからあっちまで5歩ね！」



子どもの姿・出来事

子どもたちは、ドッジボールのコートを同じ大きさにしたいと考え、自分の歩幅で測った。日々「5歩」を目安に作るようになり、さらに人によって歩幅が違うことが問題になる。

幼児期に育つ「基礎」

長い・短い、同じ・違うに気付く。歩数を使って長さを捉える。結果を比べ、ずれの原因を考え、測り方を調整する。

小学校1年生でつながる学び

算数：長さなどの量を具体的な操作で比べること、他のものを用いて比べること、比べ方を考えること。

ここが架け橋

「同じコートにしたいから測る」経験から、「どうすれば長さを比べられるだろう」という対象をより自覚した学びへ。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」思考力の芽生え／数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚／協同性

2. トランプを自分たちで作る

算数「数」の手前にある経験



子どもの姿・出来事

人気のトランプを自分たちで作る。必要な数字と枚数を意識して分担する中で、同じカードが重複するなどの問題が起き、作り方や情報共有の方法を考えていった。

幼児期に育つ「基礎」

数字、枚数、必要な数、同じ・違う、対応関係に気付く。数量を現実の問題解決のために使う。

小学校1年生でつながる学び

算数：ものの個数を数える・比べる、数を他の数と関係付けてみる。国語：文字・記号の働き。

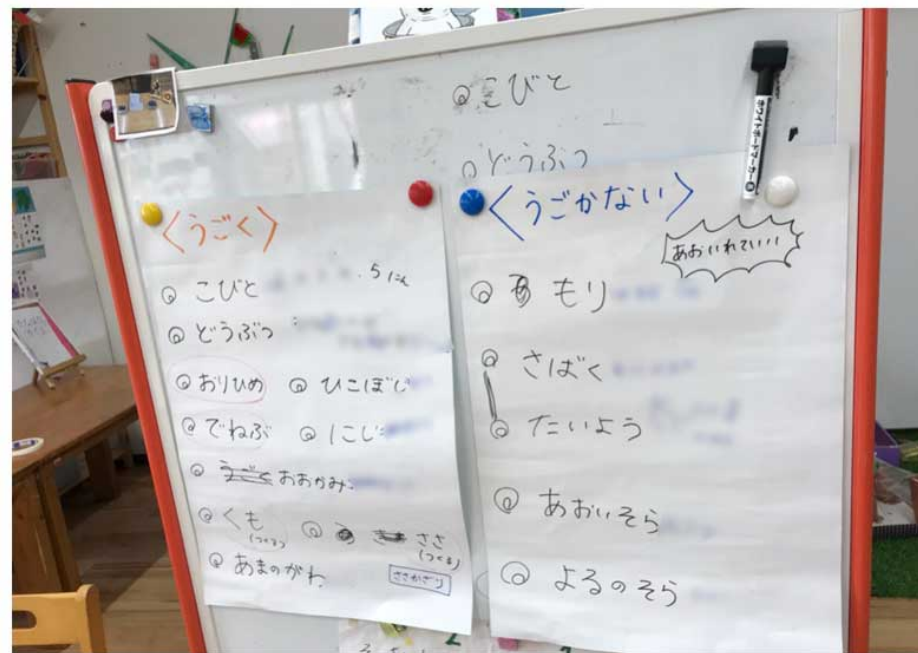
ここが架け橋

「数字を覚える」前に、枚数を合わせるなど「数が必要になる」生活や遊びがある。数を使う必然性をもった経験が、教科としての数の学びへつながる。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚／思考力の芽生え／協同性

3. 同じものを作らないためには

特別活動・国語につながる問題解決



子どもの姿・出来事

映画製作で同じ小道具を重複して作る問題が起きた。子どもたちは「誰が何を作るか決める」「リストに名前を書く」といった解決策を考え、実行した。

幼児期に育つ「基礎」

集団の問題に気付く。解決案を出す。比較し、方法を決める。文字やリストを使って情報を共有・管理する。

小学校1年生でつながる学び

特別活動：集団の問題を見だし、話し合い、合意形成し、役割を分担して実践する。
国語：話す・聞く、文字を用いて伝える。

ここが架け橋

映画や協同製作の作品を完成させるために、より良い作業のための必要感や、本当に解決すべき問題があるから話し合う。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」協同性／言葉による伝え合い／社会生活との関わり

4. 映画作り—登場人物とストーリーボード

国語「構成し、伝える」の手前にある経験



子どもの姿・出来事

年長組が物語作りから映画製作を始め、キャラクターデザインと物語の詳細を固めるストーリーボードを制作。iPadで描いたものを転送し、背景に仮に重ねて確かめた。

幼児期に育つ「基礎」

物語、場面、順序、登場人物を考える。イメージを絵や言葉で友達と共有する。

小学校1年生でつながる学び

国語：話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと。経験や想像したことを順序立てて表し、相手を意識して伝える。

ここが架け橋

「お話を作ろう」から生まれた物語構成が、小学校では言葉や文章そのものにも意識を向けた表現へ発展する。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」言葉による伝え合い／豊かな感性と表現／協同性

5. 運動会と文字と友達の思い

国語「読む・書く」の手前にある意味のある文字



子どもの姿・出来事

「運動会で頑張りたいこと」をiPadで描く子どもたち。納得するまで何度も描き直します。絵に文字を添えると、友達も「たけうまだ！」と絵と文字から思いを読み取っています。

幼児期に育つ「基礎」

自分の思いを表現しようと、試行錯誤する力が育ちます。また文字が「思いを伝え、知るもの」であることを生活の中で実感していきます。

小学校1年生でつながる学び

文字を読み書きする学習や、自分の考えを表現する学びにつながります。友達の表現を読み取り、思いを知る経験も伝え合う力の土台になります。

ここが架け橋

文字を先取りして覚えるのではなく、「伝えたい」「知りたい」という思いから文字に出会う。その経験が、小学校での「読む・書く・伝え合う」学びへつながります。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」言葉による伝え合い／数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚／豊かな感性と表現/社会生活との関わり

6. 水のお絵かきー太陽の消しゴム

生活科「自然との関わり」の手前にある探究



※写真は年少児

子どもの姿・出来事

水で自由に描ける黒い板。塗りつぶそうとしても、太陽の熱で水は次々に乾いていきます。それでも子どもたちは、消えていく水を追いかけるように何度も塗り続けます。

幼児期に育つ「基礎」

「塗りたいのに乾いてしまう」という自然現象に出会い、繰り返し試す中で、変化に気づく力や粘り強く試みる力が育ちます。

小学校1年生でつながる学び

身の回りの自然の変化に気づき、「どうしてだろう」と考えたり、試したりする生活科などの学びにつながります。

ここが架け橋

幼児期は、現象を知識として覚える前に、まず身体で出会います。「描く→消える→また描く」という夢中になった体験が、自然の変化に目を向け、考える学びの土台になります。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」自然との関わり・生命尊重／思考力の芽生え

7. 森の音楽会一音を作り、重ねて録音する

音楽「音楽づくり」の手前にある経験



もりのおんがくかい (プチプチは照明)



台本、執筆中



協同で音楽製作

「森の音楽会♪」

OHPでのお話作り。

「今日はどんなお話作るのかな」と楽しんでいる子ども達です。そしてこの日は「もりのおんがくかい」というお話を作ることになりました。そしていつものように透明ビニールに絵を描いて、台本も書いていきます。

音楽会ということで、「素敵にしたいよね」と話していたので、これまで色を塗っていたプチプチを照明に見立てたり、ステージっぽい枠を作ったりと透明ビニールだけではなくものを使った物語になっていきました。そして

保「音楽会だから本当に音楽がなったら素敵じゃない!？」
と話すと

子「いいね〜」

H「じゃ、iPad使えばいいんじゃない」と提案してくれました

きっと、以前にiPadのアプリで音を作った経験を思い出したのだと思います。そこでiPadを使って音楽会で流す音作りが始まりました。登場人物がそれぞれ楽器を持って登場するのでそれに合った楽器を選んで音を作っていきます。今回は「かえるの歌」です。この歌に合うようにリズムを叩いたり、音を出す姿がありました。音楽会なので全部の楽器がキレイに聞こえるように意識していた事がすごいなと感じました♪

お話が始めは透明ビニールだけだったところから少しずつ周りの素材を活用しながら作ることに変化し、より素敵なものが創り出されているな〜と感じています!!

さくら組 (5歳児) 2023.6.8

子どもの姿・出来事

お話作り「森の音楽会」で、子どもから「iPad使えばいいんじゃない」と提案。登場人物に合う楽器を選び、「かえるの歌」に合わせてリズムを演奏。何度も演奏し、間違えたらやり直し、トラックを重ねて録音した。

幼児期に育つ「基礎」

音色やリズムの違いを感じる。物語に合う音を選ぶ。音を組み合わせる。全体の聞こえ方を意識し、聴き直して修正する。

小学校1年生でつながる学び

音楽：身近な音を探す、音を選択・組み合わせる、リズムを感じて表現する、友達と音楽活動を楽しむ。

ここが架け橋

「物語を素敵にしたいから音を作る」経験から、音色・リズム・重なりなど音楽そのものにも意識を向ける学びへ。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」豊かな感性と表現／協同性／言葉による伝え合い

8. 箱積み競技—どうすれば高く積める？

体育・算数・特別活動が重なる経験



箱積み 勝つために作戦を立てよう！

運動会でするサーキットリレーの中にも入っている箱積み。
本番では赤組白組に分かれてやりますが、今は練習のために保育室に箱を置いてい
るんな子どもたちが参加している様子がります。

毎日箱積みをする中で、勝つためには作戦が必要だと気づいた様子の子どもたち。
前のさくら組さんがやっていたことを見よう見まねでやっていたが、少しずつ自分たちの
作戦を考えようとする姿が出てきました。

「3つ、3つ、4つってまずは重ねてそれを一気に重ねた方が早くできそう」
「でもそれだったら最後は届かないから最後は1つずつする？」
「持ち上げる作戦がいいと思うけど、高いところを持ち上げたら届かないからできない」
「でもあんまり下を持ったら上が重いからすぐ崩れるもん」
「Kちゃんの作戦とAちゃんの作戦を混ぜたらもっといいかもよ！」

この場にいるみんなが互いに話を聞きながら協力しようとする姿がとてもいいなと思いました。
全体で箱積みの作戦会議をした時にも、この時のことを
思い出しながら意見を出し合う姿もありました。
今はとてもいい勝負なので、本番も楽しみです♪

さくら組（年長） 9月22日



子どもの姿・出来事

二人で箱を持ち上げ途中に箱を入れていく作戦。箱積みの作戦会議で「最後に積む人は背が高い方がいい」「持ち上げる箱の数が少ない方が持ち上げやすい」など、身体と物の関係を踏まえた作戦が生まれた。

幼児期に育つ「基礎」

高さ、数、位置、身体の大きさ、力の使い方に気付く。役割を考え、仲間に伝え、状況に応じて方法を変える。

小学校1年生でつながる学び

体育：運動遊びの行い方を工夫し、考えたことを伝える。算数：数・高さ・位置。特別活動：役割分担と協働。

ここが架け橋

一つの運動遊びの中で、身体・数量・言葉・協同が分かれずに働いている。幼児期の総合的な学びを象徴する事例。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」健康な心と体／協同性／思考力の芽生え／言葉による伝え合い

9. 自分たちの力でドッジボールを運営する

体育・特別活動につながる自治



子どもの姿・出来事

以前は保育者が仕切っていたドッジボールを、自分たちで線を引き、チーム分けをし、全員が集まるまで声を掛け合って進めるようになった。

幼児期に育つ「基礎」

ルールや場の意味を理解する。仲間を意識する。自分たちで遊びを成立させようと役割を担う。

小学校1年生でつながる学び

体育：きまりを守り、友達と運動遊びを楽しむ。特別活動：集団生活をよりよくするために協力して実践する。

ここが架け橋

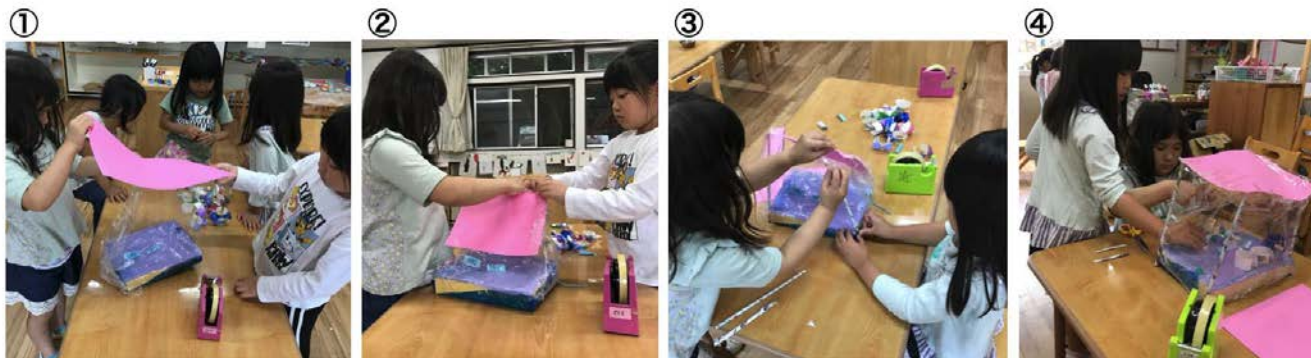
運動技能だけではなく、「みんなで遊びを成立させる力」が育っている。小学校の学級生活や体育の土台になる。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」健康な心と体／自立心／協同性／道徳性・規範意識の芽生え

10. ショーケースー「棒を立てればいい」

図工・算数「図形」につながる構造理解

ショーケースを作ろう!!



アクセサリ屋さんをしようと思輪やプレスレットを作っていた子ども達。できると指輪などを乗せる台など必要だと話していました。
「アクセサリ屋さんって箱の中に入ってるよね」というどこかで見たことのある経験から、ショーケースも作るようになりました!!

初めに透明なビニールを箱の周りにつけ、上は画用紙で蓋をすることに! この時、作っている本人達はビニールと画用紙をつけたらショーケースができるものだと考えていたようです。しかし、2枚目の写真のようにどんどん傾いてきて、手を離すと「ペシャンってなるよ」「立たないね」と潰れてしまうことに気付いたようです。

そこで考えます。近くを通りかかった友達が「棒を立てればいいんじゃない」と提案してくれたことで「いいね♪」と柱を立てることになりました。初めは前の2本だけつけていましたが、後ろの方がグシャとなっていることにも気づきました別の友達が「こっちにもつけたほうがいいんじゃない」と提案してくれ、最後には納得のいくものができたようです!!

やっていく中で上手いかわからないことも経験しながら、「こうしたらいいかも」と考えたり友達から教えてもらいながら目標に向かっていく姿がいいなと思いました!!

さくら組 (5歳児) 2023.5.18 (木)

子どもの姿・出来事

透明ビニールで箱を作ろうとしたが、強度がなく潰れてしまう。子どもが「棒を立てればいい」と気づき、柱を立てて補強し、立体を維持した。

幼児期に育つ「基礎」

素材の柔らかさ、自立しにくさに気付く。形を維持するための骨組み・柱の役割を試行を通して理解する。

小学校1年生でつながる学び

図工：材料をつなぐ・組み合わせる、表し方を工夫する。算数：身の回りの立体や形の特徴に着目する。

ここが架け橋

「箱を作りたい」という目的から、素材と構造の関係に気付く。小学校では材料や形の特徴をより意識して考える学びへ。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」思考力の芽生え／数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚／豊かな感性と表現

11. 雛人形協同製作一本物を見て、測って、作る

図工・算数・協働が重なる長期プロジェクト



子どもの姿・出来事

雛人形を実際に飾って観察し、撮影・測定しながら製作する。過去の製作経験を応用し、友達のアイディアも取り入れ、最後には自分の分が終わった子が仲間を手伝って完成させた。

幼児期に育つ「基礎」

形、大きさ、枚数、材料、構造に気付く。対象をよく見る。過去の経験を新しい課題に応用する。仲間と役割をつなぐ。

小学校1年生でつながる学び

図工：見たこと・感じたことから表す、材料や形を工夫する。算数：数量・形・測定。特別活動：協働。

ここが架け橋

教科ごとに分けることのできない総合的な経験が、長期間の共通目的の中で編み込まれている。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」協同性／思考力の芽生え／数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚／豊かな感性と表現

12. 「規則のある並べ方」や身近な配置に気付く

算数「図形・規則性」へつながる視覚的な気付き



子どもの姿・出来事

年長組の日常には、物を一定の規則で並べたり、位置や配置を意識したりする姿が記録されている。遊びや製作の中で、形や位置関係を身体と視覚で捉えている。

幼児期に育つ「基礎」

並び方、位置、形の違い・共通点に気付く。規則性を見付け、自分なりに構成する。

小学校1年生でつながる学び

算数：身の回りのものの形を捉える、形を構成する、位置を表す。
図工：並べる・つなぐなどの造形活動。

ここが架け橋

生活や遊びの中で感じていた「形や並びの面白さ」が、小学校で形や位置を対象として考える学びへつながる。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚／思考力の芽生え／豊かな感性と表現

小学校の先生が逆引きするための索引

小1でこれを学ぶとき	幼稚園では、こんな経験をしています	代表事例	事例で取り上げていない遊び
数を数える・比べる	必要な数を数え、足りない・重複などの問題を解決する	トランプ作り	砂場の型抜き、泥ダンゴの重さ、リレーの人数、ドッジボールのチーム分け
長さを比べる	遊び場を同じ大きさにするため、歩幅で測り比べる	ドッジボールコート	製作(動物の足)、立たせるための構造
形・構造を考える	作りたいものを立たせるため、材料と骨組みを試す	ショーケース、雛人形	ガチャポンの仕組み、自動販売機、滑車で井戸お化けが出てくる仕組み、エレベーター
話す・聞く	共通の目的を実現するため、案を出し、聞き、決める	映画製作、箱積み	ドッジボールやケイドロなど、遊びで問題が起きた時の話し合い
読む・書く	知りたい・伝えたい必要から、文字やリストを使う	運動会門作り、映画リスト	遊びの中で作られた掲示物
自然に関わる	水が乾いて消えていく変化に気づき、繰り返し試す	水のお絵かき	雨樋をつなげて水を流す遊び、中庭の植物・野菜
音をつくる	物語に合う音を選び、重ね、聴き直す	森の音楽会	劇のBGM製作、工房の音の出るモノ
運動を工夫する	動き・作戦・役割を友達と調整する	箱積み、ドッジボール	缶けり、竹馬、大縄跳び、ケイドロ、一輪車、鉄棒
学級で話し合う	集団の本当の問題を見だし、解決策を決めて実行する	映画製作「同じものを作らないためには」	帰りの会の振り返り、製作物の困難な箇所の話し合い

「10の姿」から見る代表事例

以下は、各事例と特に関わりの深い「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を示したものです。一つの事例には複数の姿が重なって現れます。固定的な分類ではなく、幼小で子どもの育ちを語り合うための手掛かりとして表示しています。

代表事例	特に関わりの深い「10の姿」
1 ドッジボールコート	思考力の芽生え／数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚／協同性
2 トランプ作り	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚／思考力の芽生え／協同性
3 同じものを作らないためには	協同性／言葉による伝え合い／社会生活との関わり
4 映画作り	言葉による伝え合い／豊かな感性と表現／協同性
5 運動会と文字	言葉による伝え合い／数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚／豊かな感性と表現/社会生活との関わり
6 水のお絵かき	自然との関わり・生命尊重／思考力の芽生え
7 森の音楽会	豊かな感性と表現／協同性／言葉による伝え合い
8 箱積み競技	健康な心と体／協同性／思考力の芽生え／言葉による伝え合い
9 ドッジボールの運営	健康な心と体／自立心／協同性／道徳性・規範意識の芽生え
10 ショーケース	思考力の芽生え／数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚／豊かな感性と表現
11 雛人形協同製作	協同性／思考力の芽生え／数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚／豊かな感性と表現
12 規則のある並べ方	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚／思考力の芽生え／豊かな感性と表現